

くりまっこ

元気いっぱい 笑顔あふれる 栗真の子



「津市おはなしグループ連絡会」の方々による「おはなし会」

令和6年1月15日（月）に「津市おはなしグループ連絡会」の方々に来校し、全学年を対象に、「おはなし会」を行っていただきました。3限目には、1年生・3年生・5年生に向けて、4限目には、2年生・4年生・6年生に向けて、それぞれの学年の発達段階に合わせた本を3冊ずつ準備していただきました。準備された本の原作は、日本だけでなく、海外の本も含まれています。本を通して、海外の文化を知るよい機会にもなりました。

この「おはなし会」ですが、前回5月に実施した時と同じように、語り手が、本に記載された内容をすべて記憶した上で、子どもたちを前に情感を込めて語っていくというものです。中には、15分ほど語っていただいた本もあり、その記憶力にはいつも脱帽してしまいます。おそらく言葉としてではなく、文章を情景に置き換えて覚えているのではと思っています。このことから、読書をすることで、感性が豊かになり、想像力が育つということにも納得できます。「津市おはなしグループ連絡会」の皆さん、ありがとうございました。



「くるりんペーパー事業」にご協力を！



栗真小学校では、津市が進めている「くるりんペーパー事業」に参加しています。紙のリサイクルマークがついた紙箱等の紙類の量に応じて、学校で使用するトイレットペーパーがもらえます。もしご家庭に紙箱等がありましたら、学校の東昇降口の下駄箱付近に置いてある回収ボックスの中に入れていただくと、ありがたいです。

- 【注意事項】
- ・空箱は、開いて持ってきて下さい。
 - ・ビニールや金属等紙以外がついているときそれらを取り外してください。

【次のものは回収できません】

- *箱の内側に、水や油がしみ出さないように加工されている紙類
 - ・カップ麺のふた
 - ・アイスクリームのカップやふた
 - ・ポテトチップスなどの紙の筒
- *ガムの銀紙、金色や銀色で印刷してあるもの
- *せっけんの箱など、においの付いているもの
- *汚れているもの

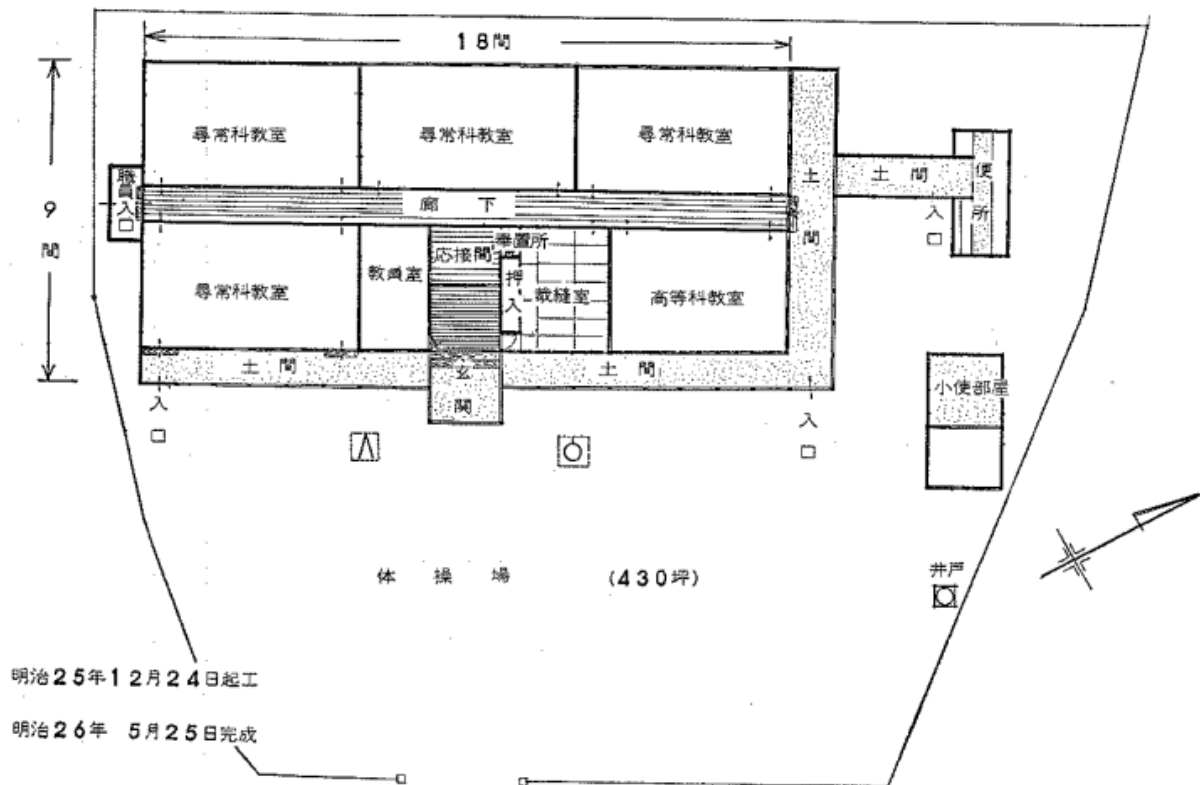
◇◇◇ 創立150周年に向けて ~その2~ ◇◇◇

近代化を進める日本は、明治5年に「学制」を公布しました。「学制」とは、我が国初の近代的学校制度を定めた基本法令です。津市においても、養正小学校や修成小学校の前身となる学校が開校されていきます。栗真小学校の前身である中山学校は、明治7年5月25日に開校されました。この年は、「板垣死すとも自由は死せず」の言葉で有名な板垣退助が同志とともに「国会開設」を要求し、自由民権運動が始まったとされる頃です。

明治14年になると、町屋村、中山村、小川村の3つの村は学校組合をつくり、中山学校を本校として、町屋、小川の村へ分教場（今でいう「分校」のこと）を設けます。明治17年には、中山学校を栗真学校と称するようになります。

明治20年4月には、小学校令という制度によって栗真学校は、栗真簡易科授業所に名称が変わり、明治25年3月には、修業年限が4年間の尋常小学校となります。栗真小学校の建物と敷地は設立されてから明治23年までは、借地と借屋、一部は民家を使っていたそうです。しかし、明治20年に学制が改められたことや、栗真の人たちの教育を尊重する気持ちが高まったことなどから、学校へ入学する児童が年々増えてきたため、明治25年に校舎を新築することになりました。この当時は、今のように義務教育ではなかったため、みんなが学校に行けるわけではない時代でした。そして、新校舎が完成したのは、明治26年5月25日でした。この新校舎新築のために購入した土地と建築費用を合わせると、2530円だったそうです。その当時としては、多額の費用であったため、「けしからん」という声もあったそうです。

学校組合立 栗真尋常小学校平面図



【参考】栗真小学校創立100周年記念「栗真郷土史妙」